



発行所 県立芦屋高等学校 出版部 兵庫県芦屋市宮川町6-3 TEL. 0797-32-2325

記念祭特集号

今年の記念祭のテーマ「私達の芦高」は芦高を見つめ直す意味で考えられた。九月二十八日から始められたが、五日間の予定が豪雨のため一日延長される事態となった。自治会展示の中でも、合同展示という新しい試みに対してかなりの力を入れている。

同示 合展 新たな試み

記念祭第一日目に例年通り予定されていた体育祭が、豪雨のため延期となり、九月二十九日に行われるはずの展示が繰り上げられた。今年も、新しい試みとして、合同展示や、芸術展示や、個人展示が計画されていた。しかし、このうちの個人展示は、展示出されるだけの作品が揃わなかったため、やむを得ず中止された。芸術展示では、比較的作品が少ない、全体的に質素な雰囲気だった。そのため人の出入りも決して多くはなかった。また、楽科の発表がなかった事に

間を、そして少しでも「私達の芦高」というテーマを考へる場としてふさわしい展示会場になるよう午前十時四十分より開始されたこの展示は、形式としてはパネルディスプレイ、川、パネルに東村・古教、司会者に安藤・笹川、松本・北島・OBの各口、中村忠生先生、そして父兄の方をお招きして話した。田中さんをお招きして話した。父兄の方をお招きして話した。田中さんをお招きして話した。

部説

第三十五回記 念祭が九月二十

変わり行く主旨

八月から十月三日まで、六日間に渡って行われた。初日は、台風のため暴雨にみまわれ心配されたが、その後天気は回復し、絶好の記念祭日和になった。この記念祭のために何ヶ月も前から、各クラスで、ユニホーム作成、デコレーション作成の準備が行なわれ、クラス展示参加クラスでは構想が練られた。まず初日はク

みであった様に思われた。通りのこの企画は、初めて試みたとして行われた。高を見つめるという意味では、重要な観点についているように思われる。

講演会 歯の衛生を考える



事がないため、虫歯になっという事だ。その次の西北ネバールの遠征では女子学術登山隊医学班班長として参加された。二ヶ月の滞在で歯科だけでなく、外科、内科一般を担当された。その患者の中で重度の結核のため胸にどういふみを持つた少女や顔に悪性腫瘍を持った女性に出会ったが、助ける事が出来ず悔やんでおられた。その他にもはるばる砂漠を越えて、診療所を訪ねて来る人が多くいた

体育祭 応援に励む選手達

九月二十八日に予定されていた体育祭は、台風十号の到来のため延期になり十月三日に行われた。当日は、晴天となり十月とは思えない暑さであった。生徒達は昨日の閉祭の疲れも見せず、まきびきりした態度で開会式に臨んだ。一般席はほとんど空席であり、少し寂しいスタートであった。



(部対抗リレー デッドヒート)

女子 務川五月 二〇〇メートル 女子 好井秀樹 女子 橋本法子 一〇〇メートル 井床 勉

閉会式の時に発表された総合成績ですが、集計にミスがありました。これは秋を楽しく暇はないので、一〇〇メートルでは発表と間違っていて訂正いたしました。 (渡辺祐介)

裏表雑語

二期期に入ったと思つたら直ぐに記念祭がやって来た。台風十号により一日延びた記念祭だが、あつという間に終わり、後は疲労だけがどつと残つた。その記念祭が終わって以来、めつたりと寒くなった。九月中は半袖のカッターシャツを着てきたが、十月に入ると半袖のカッターで二三日過ぎすとすっかり風邪をひいてしまった。手が出したくないので今まではほとんど役に立ってこなかったコーヒの自動販売機が活動する冬がやって来るのである。

